

FNo.0・6・0(甲)

令和3年2月25日

一般社団法人秦野伊勢原医師会
会長 関野 高弘 様

秦野市議会議長 今 井



議会報告会に係る本市議会への御意見・御要望等について(回答)

向春の候 貴団体におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃より本市議会の取組に対し、多大なる御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、御多忙の中、令和2年12月15日付けで、本市議会への御意見・御要望等を賜り、重ねて御礼申し上げます。

貴団体から賜りました御意見・御要望等につきましては、文教福祉常任委員会を中心に、本市議会議員で協議を重ね、別紙のとおり回答書を作成いたしましたので、御高覧いただければ幸いです。

今後、貴団体のますますの御発展と御多幸をお祈りするとともに、議会活動や市政に対し、引き続き御指導御鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

(お問い合わせ先)

秦野市議会議員 文教福祉常任委員会 委員長 谷 和雄

(事務担当)

秦野市議会 議会局 議事政策課 政策調査担当 廣田 達也

直通電話： 0463-82-9652

ファクス： 0463-84-2299

回 答 書

(一社) 秦野伊勢原医師会 御中

秦野市議会文教福祉常任委員会

No.	意見・要望内容	回 答
1	<p>現在、秦野市には小児科で入院治療を受けられる病院がなく、365日、小児の二次救急は伊勢原協同病院が担当している。秦野市と伊勢原市は同じ医療圏なので、県全体で見れば小児医療は問題ない。しかし、市内で入院できる小児科がないことは、現在の秦野市民だけでなく、これから秦野に住むことを考える若い方にとっても、気になる点だと思う。秦野市は秦野赤十字病院の分娩再開にこだわっているが、小児科の整備も必要である。</p>	<p>本市の小児科における二次救急の医療体制の中では、これまでの経過から、秦野伊勢原ブロックとして伊勢原協同病院に委託している現状があることは認識しています。</p> <p>小児二次救急医療体制を確保するためには、病院及び有床診療所の整備や、一次救急を含めた医療体制を充実させることが必要であると考えます。</p> <p>看護師を含めた人員の確保等が課題であると認識しておりますが、市民の不安を解消するため、関係機関と情報を共有し、適切な支援に取り組んでいくよう、市執行部に対して要望いたします。</p>
2	<p>秦野市新総合計画の医療に関しては秦野赤十字病院しか名前が出てこないが、地域医療を担っている秦野赤十字病院、神奈川病院、両方の病院を支えるべきである。片方が救急当番を止めると救急は破綻してしまう。</p>	<p>本市の地域医療にとって、神奈川病院を含めた二次救急医療体制の維持・確保は、大変重要なことであると認識しています。</p> <p>市執行部と情報を共有しながら、市民の皆様の命と健康を守っていくため、必要な医療が適切に提供されるように、医療機関とのさらなる連携強化を図るとともに、様々な事例を参考に適切な支援を行うよう、市議会として働きかけを行っていきます。</p>

No.	意見・要望内容	回 答
3	<p>今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、患者の受診抑制が起きている。病院、診療所、さらに秦野市休日夜間急患診療所まで患者数の減少が顕著で、赤字状態に陥っている。秦野市から臨時の助成金をいただき感謝しているが、全く足りないため、引き続き支援をお願いしたい。</p>	<p>令和2年9月秦野市議会第3回定例会において、「休日夜間急患診療所運営費補助金」として900万円の補正予算案を可決いたしました。</p> <p>今後も、新型コロナウイルス感染症の影響で感染リスクが高まることを懸念し、受診抑制は続くことが想定されます。</p> <p>休日夜間急患診療所は、市民の不安を解消するための施設として欠かすことのできない存在であると考えますので、市執行部に対して、現状を的確に捉えた適切な支援を行うよう要望いたします。</p>
4	<p>秦野伊勢原医師会及び秦野市休日夜間急患診療所の建物が老朽化し、かつ駐車場が手狭になったことから新築移転を考える時期になってきた。災害時の拠点になる建物なので、幹線道路の近くが望ましい。医師会では適当な土地を見つけることはできないので、秦野市の協力がぜひとも必要である。</p>	<p>秦野市休日夜間急患診療所の建物につきましては、過去にも老朽化と耐震化という観点から、建て替えに係る検討をされた経過があると認識しています。</p> <p>貴団体において、建て替えや移転をする際の検討事項などについて具体的に整理されましたら、市議会としても市執行部に対して働きかけを行います。</p>
5	<p>少子化対策には、定住促進、婚活支援、子育て支援、シングルマザー支援、などであるが行政のPRも必要だ。「子育ての町はだの」と東名高速道路の橋にPRしてほしい。具体的には少し高台の県立秦野戸川公園標高レベルの、眺めの良いウォーキング・ランニングコース、サイクリングコースがあればいいと思う。教育支援、不登校支援も活発に行ってほしい。</p>	<p>定住促進や子育て支援など、現在も取り組んでいる施策はありますが、「子育ての町はだの」と対外的にPRするためには、市として取り組まなければならない施策がまだあると認識しています。</p> <p>また、市では、自分の学校に籍を置いたまま転校しないで通うことができる、教育支援教室「いずみ」や、訪問型個別支援教室「つばさ」を設置するなど、不登校に悩む児童生徒に対する支援策を実施しています。</p>

No.	意見・要望内容	回 答
6	<p>産科、小児科救急は少子化、産科・小児科医の減少に伴い全国的に広域となっている。日本小児科学会でも良く議論される。秦野市だけにとらわれず伊勢原市を中心に広域で産科小児科医療をPRすべきと考える。</p>	<p>秦野赤十字病院の分娩業務再開は市の課題であることはもちろんですが、市内には年間数百件もの出産を手掛けてもらっている産科婦人科医院もあります。</p> <p>また、小児科の診療所についても市内には複数ありますので、まずは現在の市の医療体制について、市民がより利用しやすくなるような広報に努めるよう、市執行部に対して要望いたします。</p>
7	<p>秦野市休日夜間急患診療所に対する市補助金は、平成26年度は59,322,000円で、令和元年度はそこから17,739,000円の補助金が減額された計算となる。伊勢原市はこの間、3,319,270円の補助金減額にすぎない。</p> <p>秦野伊勢原医師会の運営に関しご理解いただき、秦野市休日夜間急患診療所に対する補助金の減額が秦野市の不利益につながる現状についてご理解を切にお願いしたい。</p>	<p>休日夜間急患診療所に対する運営費補助金につきましては、補助単価が伊勢原市よりも高い金額に設定されています。また、令和2年度予算では、年末年始の体制強化のため、人件費を上乗せしているとのことです。</p> <p>しかし、休日夜間急患診療所は、市民の不安を解消するための施設として欠かすことのできない存在であると考えますので、市執行部に対して、現状を的確に捉えた適切な支援を行うよう要望します。</p>